

平成 29 年度町政懇談会記録（要旨）

開催日：平成 29 年 9 月 27 日（水）

開会：午後 7 時 00 分 閉会：午後 8 時 03 分

場所：八幡新田コミュニティセンター

参加者：男 11 人、女 4 人 計 15 人（うち職員 2 人）

町職員：町長、副町長、建設部参事、上下水道課長、政策課員

○懇談

男性 1 　　いま新しくやっておられる農業の規模、収穫量の予想はどれくらいですか。

建設部参事　　長深はあくまでも実証圃場ということで、ブドウ、ブルーベリーそれぞれ 500 m² ずつです。ブルーベリーについては 500 m² で 50 本苗木を植えさせていただいて、ブドウについては、5 種類 2 本ずつ 10 本の苗木を植えさせていただいています。平成 26 年 12 月に苗木を植え、今年やっと果実が 4 割程度実りました。来年には 8 割くらいに近づくとと思います。今年収穫した果実の試食をしていただいたり、洋菓子屋さんを持ち込んで東員町の特産品となり得る商品を作っていたりしています。非常に甘くて糖度も高いということで、これを来年度から少しずつでも東員町全域で取り組めるように推進していこうという状況でございます。

男性 2 　　3 年間投資した収支は出てないと思いますが、その予測、推移は、何年度にどういうふうにとお考えでしょうか。

建設部参事　　施設が必要ですので、田んぼで米や麦、大豆を作るよりは初期投資がかかります。初期投資はかかりますが、1 反あたりの生産額はブドウでいくと、180 万円、ブルーベリーで 130 万円を見込んでいます。5 年後には、投資した施設の経費は元をとり、6 年後には儲けていただくことができるという試算をしています。

男性 2 　　天候や気象によるリスクは想定つかないかもしれませんが、儲かりますということ を 3 年後に町民に PR できますか。

建設部参事　　ブルーベリーはこの冬の雪でも大丈夫でした。ブドウについては、当初のビニールハウスは積雪 40cm までは耐えられるものを建てたのですが、この 1 月の 2 日間の大雪が長深地区で 55cm を超えていました。2 日間ですから、上からの重みがかかって 55cm となり、2 日間で降った積雪はおそらく 80cm を超えていたであろうということで、ビニールハウスはつぶれてしまいました。そこで建て替えたものは、50cm を耐えられるように補強して建て替えました。これから、若い農業者がブドウをやろうとい

うときには、今の仕様のものをおすすめします。それであればつぶれることはないだろうと思います。どうしても、施設には初期投資がいりますからそのことを理解していただいて、いいブドウを作っていただくよう、指導をしていきます。今1名やりたいという方がお見えになりますが、1名では少ないですので、町がやり出した成果を見せるために、町外の農業法人にお願いして、もう少し拡大して見本を見せていただきたいと進めています。それを見ていただければ、儲かる農業をやりたいという若者がでてくると思います。今やっているのは、ブドウとブルーベリーですが、これからはイチゴやトマトなど色々なものを考えています。もうひとつ儲かる農業のなかには、町の面積の3割にあたる700haの農地がありますが、この農地は水田利用型の農業を従来からやっております。この700haで生産額3億7,000万ほどしかないんです。1反当りにしますと58,000円しか収益をあげていません。これでは、若い者が魅力を感じて農業を継ごうとは思いません。このままいくと、700haの農地が耕作放棄地になり得るだろうという懸念もあります。東員町が持続的な発展をしていくためには、先祖から受け継いだ貴重な財産である農地を利用して、ここで今よりもずっと稼げる農業を展開する、そこで、高齢者や子育てを終えた女性の方や障がいの方の雇用も生まれます。いま水田農業の中で目をつけているのが、大豆です。東員町は1反当たりの収穫量が少なく、全国平均の3分の1です。これを全国平均にしていだけで3倍になります。また、四日市市に大豆を使った製品を売り出している企業がありますが、この企業の機械を使って大豆を加工すると、おからがでない豆腐ができます。おからがでないということは、産業廃棄物としての処理もいらないうし、大豆の栄養素が詰まった豆腐、豆乳ができます。これは、高く売れますし、この会社も高く売っていますし、海外へも進出しています。この会社と協議しながら、この会社の技術を東員町に取り入れて、この会社と事業展開ができないかということ、いま考えています。そうしますと、東員町産の大豆製品ができますし、雇用も発生します。また農業の6次産業化にもつながります。こういった、施設の野菜、果樹、果物といったものと、水田農業の活用の2本立てで儲かる農業を考えていますので、ご協力もお願いしたいと思いますし、農地を持っている方には、その農地を若い農業者に貸していただきたい、農地の集約も大切なことですので、そういったところでご協力をいただければと思っていますので、宜しく願いいたします。

男性3 この近くでブドウやブルーベリーをやって成功している地区はあるのですか。

建設部参事 この近くではないです。東員町では水道の管理事務所の近くで、鳥取の方がブドウをやってみえますが、そちらの作り方と私どもがやっている作り方は違います。今されているところについては、高齢になり今年でやめるということ聞いています。ブドウの木も大きくなっていますので、これから私どもと話をしながら、何とか活用できないかなとは思っています。

男性 4 なぜ、東員町の大豆の収穫量は全国の 3 分の 1 なんですか。

建設参事 大豆を作り始めたのが減反政策なんです。戦後食糧難のときにお米を沢山作るようにと国が政策を色々やってきました。そのために、圃場整備をしたり用水系統を直したりして、米がいっぱいとれるようになったら、日本の食文化も変わり、米が余るようになりました。余るようになると米価が下がるということで、これ以上米を作らないようにというのが減反政策です。減反施策で作られたのが、麦、大豆です。これを作ることで国から補助金が入ります。補助金が入るので、真剣に麦、大豆を沢山作らなければという思いはないわけです。この補助金はおそらく、数年後なくなります。そのための国の動きとして、農地中間管理機構というものを各県にひとつずつ作り、そこに農地を集約して、そこから担い手、大規模農家に貸しつける方策を打ち出しています。いずれ減反に対する補助金はなくなると思いますので、その前に手を打っていききたいということでございます。

男性 4 3 分の 1 といわれましたが、お金にするとどれくらいですか。

建設部参事 大豆自体はそんなに高くないですので、いま東員町の平均で 1 反当たり 55kg しかとれていません。全国平均で 177kg くらい取れています。大豆は 1 俵当たり 9,000 円ほどですので、全体が 3 倍になったとして、大豆だけでみれば、3,000 万か 4,000 万くらいしか上がりませんが、それだけではなくて、付加価値のある大豆製品が作れば何倍にもなるということで、そういったことに取り組んでいきたいと考えています。

町長 売るために大豆を作るというわけではないんです。付加価値のある大豆製品にすることで儲かるということになります。

男性 5 補助金がなくなると、今農業で生計を立てている人はどうなるのですか。

建設部参事 どうにもなりません。そのために、いま国が押し進めているのが、個人農家はいらないうことなんです。最低でも 20ha、これだけやらないと、農業で食べていけない。そういうふうに地域でまとめなさいと国はっています。いま東員町には担い手で 20ha に及んでいない人もおりますが、担い手が 29 人います。この人たちが将来の農業を担っていくと思っています。農業を始めるのに初期投資はトラクター、コンバイン、田植え機、倉庫が必要です。これで、ビニールハウスがいっぱい建ちます。機械は 1,000 万円を超えますから、借金をして購入することになり、借金を返した頃に機械は壊れます。そういう状況を見ている若い者が農業を継ぎたいと思わないわけです。小さな面積でも儲かる、人を雇うことができる農業に変えることができれば、東員町でお金が循環できて、東員町で収穫したものを東員町の人が食べられる、東員町でできたものを外へ出すことで、外からお金が稼げるといったシステムになればと思

って事業を進めたいと考えています。

町長 農業も企業経営感覚がないとだめだということです。そういう形の農業にしていこうと考えています。

・懇談による意見

1. 新しい農業にかかる事業計画や収支予測について